

「そんな理由で痴漢冤罪企てたのかよ」
「人の人生、なんだと思ってるんだ！」
「ご主人。痴漢扱いして本当にすいませんでした」
「この女にまんまとだまされて…申し訳ない」
「分かってもらえれば、それで」
「逃げるなよ」「危ねえから、あんま黄色い線
近づくな」

なんでこんなことに…。この爺のせいだ。
あたしのこと注意して、いい気になって説教まで
するもんだから。カッとなった私は…

くどくど説教じみたことを言う爺のそばを離れようとした時、電車が大きく揺れた。よるけた爺が私に覆いかぶさる。とっさに私は「痴漢……この人痴漢です！」

プルプル

「痴漢？」 「怖かった……」 「大丈夫？」

「もう安心だから」「あんた最低だな。善人づらして」

「いや、私は痴漢なんて」少し懲らしめて許してやろう。

そう思っていた。なのに、一部始終を見ていたやつが

居て……。運の悪いことに、そいつは弁護士で痴漢冤罪を

扱いなれている風だった。

次々、私の説明の矛盾が指摘されて……



「すいませんでした」

「本当に反省してるのかよ？」 「すいませんで済むか！」

「もういいじゃないですか。未遂で終わったんだから」

「ふざけるな！このアマ」 「やっぱ、刑務所に送ろう」

「それだけは。勘弁してください」



「じゃあ、ここで罰受けるの？」

「しつこくないですか？もう謝ったし」

「なんだこいつ。さっさと警察に突き出せばいい」

「今、舌打ちしたぞ」

「ごめんなさい。ううう…本当に」

「泣けば許されるとでも？」 「ウソ泣きだろ。さつきも」
「今、ちよつとイラッとした顔した」

「痴漢冤罪未遂。十年から十五年ってどこか。しっかり、
中で反省するんだな」 「本当にそれだけは…」

「だから、この場で罰を受けるのかよ？」

「……」 「はつきりしろよ！」 「…はい」

「ご主人。どうします？被害者のあなたが決めることだ」

「お名前は」 「…篠原麻衣」 「失礼だけど年齢は？」

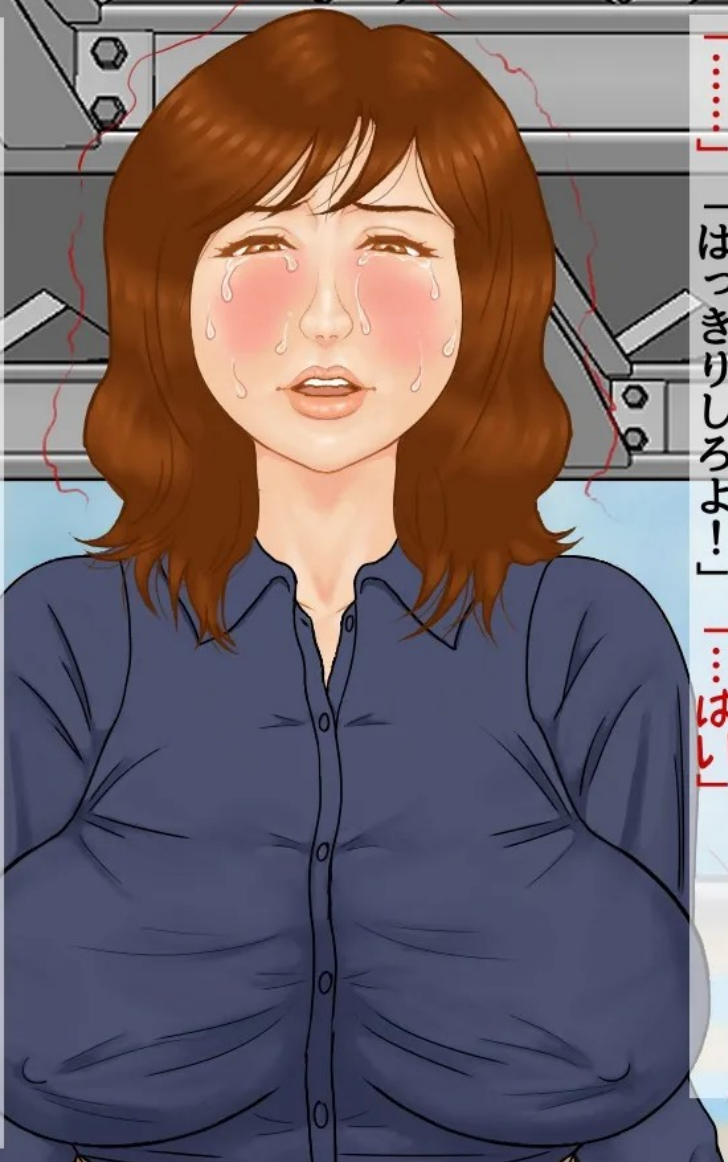
「二十九」 「刑期が十五年になったら子供を産めるか

どうか。それは、可哀想だ。ここで罰します」

助かった。これで逮捕されない。警察には報告されるけど、
前科も前歴も残らない。会社もクビにならないで済む。

けど、どうして私がこんな目に…。ああ、腹が立つ。

性犯罪の冤罪だから、処罰もきつと…。



「これは、なんというか見事な…」
「すげえオツパイ」 「性格は最悪だけど、体は最高だな」
「なんか、ご主人が羨ましくなってきましたよ」
「おい！そのでかい乳を揺らしてみろよ。それくらいサービスしろよ。俺らも被害者なんだからな」
勝手なことやって！



十年から十五年とか言ってた？その代わりの罰って
いったいどこまで？。くやしい。もう十分な罰だよ。
死ぬほど恥ずかしい。ちよつと胸を触ったりとかで
許してくれないかな？
あっち行け！関係ないやつ。集まってくんなバカ！
スマホで撮るとか、こいつら最悪。

「ほんとに大きなオツパイだ…。こんな見るのも
触るのも初めてだ。肌にも貼りがあるなあ」
ブツブツうるさい。

「言っておくが私は、好きで
こんなことをしているわけ
じゃないからね。君のこと
を考えて」
黙れ！エロシジイ。

チュパ
チュパ
モミ



こんな奴に感じさせられてたまるか。
意地でも声なんて出さない。

もう…しつこい。
いつまでオツパイを…。
しかも片方の乳首ばかり。

ん…

イギツム

ゴロゴロ

ムニウ

「なに声出すの我慢してんだよ」
「いい声で鳴いて観客を楽しませろよ」
うるさい！バカども。





ダメ…声が出ちやう。顔見るな爺。
イラつく。私の反応を見ようとして。
もうやめてよ。でないと…。

「次は、私のことを痴漢呼ばわりしてくれ
その口を罰します」 やっぱりオツパイ触る
くらいじゃ…。

こんな汚い爺の…。
泣きたいよお。

ポタッ

んっ
ジュプ
んっ

「気持ちいい。
このまま出したいくなる」

調子に乗って！
こんな奴に
口内射精とか。

うっ…

ジュプ

でも、このまま出させて
終わらせた方が…。だけど
やっぱりイヤ過ぎる。

ジュル



「ダメだ…もう出てしまう」

おえ…最悪…。けど終わった。終わり。うがいしたい。近くに薬局とかあるかな？

それにしても、爺のくせにすごく硬かったし、すごい脈打って…
どうでもいい！そんなの。

「…信じられない。
勃起したまままだ。
これなら、続けて
できそうだ」

えっ？ウン…こんな
枯れかけの奴が？



「おい！あっち。女が裸に…あれって篠原さんか？」
「やられる？なんかやらかしたな」「見に行こうぜ」
うちの課の竹田と清水？なに見てるのよ。
あっち行けバカ！

「どうしよう。ゴムなんて持っていないけど」「そのままでもいいですよ」**やめてよお…。**「このメス。興奮してビラが膨張してるじゃねえか」「痴漢だ何だと騒いでおいて、ほんとはこういう展開期待してたんじゃないの？」
バカか！何言ってるのよ。



うっ！やっぱりでかい。それに硬い。ウソでしょ？
今まで挿れられたことないのがどんどん奥へ…。
太いし。この弾力。何なのこの爺。

「すぐ濡れてて。挿れやすい」

じ、爺のくせに腰使いも激しい。
こいつよりずっと若い夫が情けなくなる…。

んんん
ううう

タツパン
タツパン

ヌププ
ズププ



「さすがに中に出すのはまずいな」「いいですよ。ご主人が有罪になってたら、失礼ですけど獄中で人生終わってたかもしれないんですよ」

「そうか。そんなことになっていたかも…」

「何言ってる？声が出ない。ああ…イクかも。こんな奴にこんな状況でイカされちゃう？イきたくない…ダメ…。」



「犯されて潮噴きやがった」「やりますね。ご主人。」

「この女、見事に昇天しましたよ」

「気持ちよかった。私は、もう限界。後は、皆さんで」

「えっ？え？「もう罰を…」」「確かに一回やられたくらいじゃ、軽過ぎるか」「そうですね。痴漢で有罪になっ

たら、今は二、三十年くらいですから」**そ、そんな…。**



「お前のせいで今日の予定が
ダメになった」じゃあ、帰れ。

なんでこんな奴に。だけど
なんで？こいつのもすごい...

シロシロ

チュッ
ズチュ

んっ
やっ

プルルン

ズプ
ズプ

あああ

ああん

ヌプ
ヌプ



「ねえちゃん。マ○コの具合も良かったぜ。セフレくらいにならしてやるぞ」
誰がお前のセフレとか。

あはあ...

あはあ

はああん

ダメえ

チュッ
ズチュ

タプ

パン
パン
パン

グググ

グググ

シロシロ



「よし。休憩のお客さんにも見てもらおう。
あそこにもお前の被害者がいるかもしれないしな」



「思い出した。こいつ、前に足踏んどいて謝りもしなかった
女だ。俺のことも痴漢に仕立てようと思ってたんじやない
のか？」 お前のことなんて覚えてない。

「おいおい。外で」「なんか分からんけどすごいな」

「見られて興奮するだろ」「そんなのない。」

「欲求不満だろ？お前。こんな状況でここまで濡れて」

「違う！…確かに夫とは、ずいぶんしてないけど。」

「子供が欲しいのに旦那にその気がない。」

「そんなところか？」…あてずっぽう言ってるだけよ。」

はああん

タポン

タポン

パコン

パコン

パコン

パコン

「子供は、まだいいんじゃないかな」

「でも私、もう二十九よ」

「大丈夫だよ。今時、四十過ぎても産む人居るんだし」

「四十まで待ってってこと？」「そういう意味じゃないよ」

「冗談でしょ？ED…。二十六で？」

「まだ、結婚二年目なのよ？」

「仕事に身を入れすぎたかも。最近疲れてたし。」

「でも大丈夫。今の仕事が一段落したら本格的に治療受けるよ」

「一段落？すぐに受けてよ！」

タプププウ ヌプププウ

ヌプププウ

おおお

ういっ

タプププウ

ゴトゴトウ
ピョトウ

「だったら俺が作ってやるよ。今からお前の中に

たっぷり子種を注ぎ込んでやるぞ」

やめて！あんなの子なんていらぬい。

「次は、俺がハメハメしてあげようね」



はああん

あはあっ

ああん

ヌブズ

ズブズ

ヌププ

ズププ

こんなに長く腰を振って
夫ならとっくに果てる。
なのに、まだこんな。

なんで、どいつも
チ○ポがでかいの？
夫のモノよりずっと…。



悔しいけど気持ちいい。
流されそうになる。

あんな事になった私を
あの人は許すかな？

夫が許しても
夫の親族が許す
かどうか。
だったらもう...

イッパツ

もんだメ

ピス
ピス
ピス

ドクン
ドクン

イクラ

ドクン
ドクン

「乗り換え待ちの電車が来た。」

「乗客のみなさんにご挨拶しとくか」

「お前の淫乱マ○コをよく見てもらえよ」

「広げて膣の中までしっっかりとな」

「イヤあ！恥ずかしいやめて。」

プルン

プルン

カパァ

見ないですよ。集まってこなくていい…!!
あいつ…高校のとき同じクラスだったやつ？
あれは、大学の時の。近所のご主人も居る。
どうして、今日に限って知り合いばかり。



「乗客のみなさん。どうですか？
今晚のおかずに。撮影しないのは
ご遠慮ください」
「どうか悪女の処罰にご協力を」

「もしかして降りたら、
俺達もやらせてもらえる？」
「一応、降りてみるか。
ドサクサに一発とか？」



もう誰があの時居たやつか
分かんない。このままじゃ…。
ここにいる全員に…。

ちよつと煽りすぎたか。
人が増えすぎた。
さっさと射精してずらかろう。

分かるぜ。恋人か旦那か知らねえが、満足させてもらってないんだろ？反応で分かるよ。もったいないよな。こないない女。でも俺は違う。いつもとは違う場所へ連れてってやる。ほら。一緒に行こうぜ。

グリグリ

グイッ

ああ...

モリモリ

クリクリ

パツクリ

あんたほんとは、そんな嫌な女じゃないんだろ？

辛いこととか不満とか色々あったんじゃないのか？

溜め込んでたんだろ。大なり小なり、みんなそうだ。

溜め込んでたんだろ。とことん気持ちよくなって

全部吐き出せばいい。

もっとどうして欲しい?どこをどうして欲しい?
オマ○コ…もっと。
よしよし。オマ○コもっと責めてあげような。
素直にしてると可愛いよ。あんた。美人だし。

うんっ

グングン

モミモミ

クリクリ

グイッ

パツクリ

ヌチユ

ヌチユ

ほらほら。こうか?
んん?どうだ?
ああ…気持ちいい…。
次は、どうして欲しい?

挿れて…。チ○ポ。
麻衣のオマ○コに。
あなたのチ○ポ。
ちようだい。

「あっちのホーム行ったら女とヤラせてもらえるってさ。しかも結構いい女らしい」

いいのかな？
こんなことして

んっ
んっ

ムニユウ

ジュプ
ジュプ

タプン

ズパ
ズパ

ズピ
ズピ

いいだろ
みんなやってるし

そもそもなんで
こんなことなってるの？

知らね



名前も知らない男達。
会社の同僚。近所の男。
知り合い。次々とあたし
の中に射精してく。

この男で何人目？
もう腹も立たなく
なった。気持ちいい
のが勝ってる。

ああ…また出された。
気持ちいい。また、
次が入って…。また…



時間も遅いし
ぶっかけて
終わりに
しますか。

はぁん

あっ

あっ

あぁん

あぁん

あっ
シコシコ

ニロニロ

クリクリ

ム

タプタプ

ム



冤罪騒ぎの現場に居合わせ、被害者男性から直接処罰の一部を引き継いだと判断された数名を除いての行為は、単なるわいせつ物陳列罪とみなされた。

その全員が実刑判決を受け、現在服役中である。



おわり



そういうことしてると
ヒドイ目に合っちゃうよ

いけないな
裸で電車に乗ったりしちや

プルンポタ

プルンポタ

たとえば
こんな風に

んんん

モミモミ
ブシュー
ブシュー

母乳で床やシートが汚れちゃったね
でも大丈夫 清掃の人がきれいにして
くれるから

これからもっと
いやらしい汁で
汚そうね





「どうしたの？変な声出して。搾乳で気持ちよくなっちゃいけないな」

「こりやいかん。おっぱいがミルクではちきれそうになってる。急いで乳しぼりが必要だ」



「しぼってもしぼっても黒ずんだ
いやらしい乳首からミルクが溢れてくる」



俺のチ○ポが欲しいか？
やめてもいいんだぞ

やめないで
欲しい…あなたの
チ○ポが欲しい

妊娠しているくせに
まだ欲しいのか？

欲しいの
もっともっと
激しく突いて！

んんん

プシュ

プシュ

プシュ

タッパン

タッパン

ヌププ

ズププ

射精して欲しいか？

出して！お願い！

注いでやるよ俺のオス汁を
お前のメス穴の中にとっぷり

出してる
出して！お願い！





ホームに裸で
立ってるってことは
犯してくださいって
ことだろ? ねえちゃん

チュッ
ズチュ

はああん

そうよさあ
みんなだまわして

あはあ

あ...あ...

タプ

プシュウ

パン
パン
パン

ド
ク
ク

シ
ロ
シ
ロ

ド
ク
ド
ク



この駅に来たら誰でも
やらしてくれる女が
居るって聞いて来たよ

イク

イクラ

プシュウ

ドクン
ドクン

でびん...
ヤリマンの味は

もろダメ

ドクン
ドクン

イ
ツ
チ
ヤ
ウ
ウ
ウ

ピ
ス
ピ
ス
ピ
ス

最高だよ



妊婦の熟れたマ○コで
マンコキも悪くないな

プシッ
グン
グン
グン

グイッ
ヌ
チユ

モ
ミ
モ
ミ
ブ
シュ

ク
リ
ク
リ

パ
ツ
ク
リ
ヌ
チ
ユ

マ○コにカウパー塗りたくって
亀頭でクリトリ擦りまくって
たまんねえ

これが例の淫乱女のマ○コか
なるほどみんな虜になるわけだ

あの日 何本のチ○ポ
啜えこんで

何回分のザーメン
注がれたんだ？この穴に





体中に
ザーメンの糸が
引くまで出して

ドピュピュ

ドクッ

ドクッ

あ...あ...あ...

ニロニロ

シコシコ

シュシューッ

シュシューッ

タプパン

ドピュドピュ

ジュンジュン

ジュンジュン

こんなに腹が大きくなっても
性欲は尽きることなしか

ああ

イク

タポポン

タポポン

ブシユウ

ブシユウ

ドプドプ

ドプドプ

そうよ出産後すぐ
産婦人科の先生に
種付けしてもらおうかな

おいおい

冗談よ♥





みなさん
心残りの無いよう
やりまくってね

このボテ腹マ○コに
ハマられるのも
もうしばらくよ

プルン
ポタ

プルン
ポタ

カパア



もう時間か
もうちょっと
楽しみたかったけど

元気な赤ちゃん産みなよ

ありがとう

ああん

あんっ

プシユ

プシユ

タププ

タププ

パロッ
パロッ
パロッ

パロッ
パロッ
パロッ

パロッ
パロッ
パロッ

「どのようなプレイがお望みですか？」

結局、あの後すぐに離婚して会社も辞めた。それから、この鉄道を模した風俗店で働いている。書き割りのホームとかじゃ、イマイチだけど、本当にやったら捕まっちゃうし。



私目当ての常連もけっこう居て。店にも感謝されている。会社員の時よりずっと稼いでるし、女手一つでもお金の心配は必要ない。

誰が言ったか忘れたけど『溜め込んじゃダメ』なんだと思う。溜め込まず、みんなで気持ちよく。